

ベトナムと日本を音楽でつなぐ

93年度ピティナ特級グランプリ

樋口あゆ子さんに聞く



93年度ピティナ特級グランプリ・樋口あゆ子さんの音楽活動の大きな特徴の二つに、ベトナムとの深い関わりがあります。

8月3日にリリースされた新アルバムにも世界初録音となる「ベトナム民謡ファンタジー」を収録。樋口さんとベトナムとのつながり、そしてベトナムという国への想いを伺いました。

（取材・文：谷口永利子）

ベトナムとの出会い

——樋口さんといえばベトナムに係の深い活動が印象的ですが、ベトナムという国との最初の出会いを教えてください。

きっかけはハノイで職業訓練カフェを経営している私の妹から「ベトナムの子どもたちのためにコンサートをしてほしい」と言われたことでした。2004年のことです。ベトナム

ムの子どもたちというのは普段生の音楽に触れる機会は皆無に等しい。そこで、私に出張コンサートをしてほしいと頼んできたのです。

ベトナムは社会主義の国ですから何でも自由にできるわけではありません。そこで、ベトナム日本商工会に主催者になっていただき、ベトナムの日本大使館にも後援していただいて第1回のコンサートを2004年7月にハノイで開きました。それ

を見た大使がすごく良いと言ってくださって、この「ふれあいコンサート」を政府として取り上げてくださることにになりました。

2006年に日本政府主催で「ジャパンフェスティバル」というイベントがハノイでありました。会場は市内のオペラハウスで、日本語で言うサントリーホールのようなところなのですが、そこで私もリサイタルをさせていただきました。そのよう

な形で現地での活動を続けていくうちに、日本とベトナム政府の要人の方が「これはベトナムと日本を繋いでくれるピアニストになるに違いない」と認めてくださるようになりました。

ベトナムの曲を演奏すること

——8月3日にリリースされた新アルバムには、世界初録音の「ベトナム民謡ファンタジー」が収録されていますね。ベトナムの曲を演奏するというのはどのような感覚なのでしょうか。

2008年からは毎年ベトナムフェスティバルというイベントに日本代表のピアニストとして出ていま



ベトナム社会主義共和国

ベトナムでの「ふれあいコンサート」の様子
(ハノイ市ホアスア職業訓練学校にて)



す。このイベントは日本とベトナムの国交35周年を記念して2008年に政府が立ち上げたもので、毎年東京の代々

木公園で行われ、約10万人が来場するイベントです。その野外ステージでのコンサートで私はずっとクラシックの曲を弾いていたのですが、クラシックだけでなくベトナム人のお客さんが飽きてしまうんですね。そこで、ベ

トナム民謡ですから、もちろん譜面はありません。そこで、まずベトナム交響楽団の音楽監督兼首席指揮者の本名徹次さんにご相談しました。すると、普段弦楽四重奏で演奏されているベトナム民謡の譜面を4曲送ってくれたったんです。それを作曲家の安良岡章夫先生に「ベトナム民謡ファンタジー」として4の組曲にしてほしいと依頼しました。安良岡先生は民謡をこのように編曲作曲するのは初めてとおっしゃりつつも腕をふるってくださって、今回のこの曲が出来上がったんです。

録音にあたって、これらの民謡の音源がないかと思ひ皆で探し回ったのですが、全く見つからなくて。本名さんに確認していただいたら、ベトナムにすら一般販売されている民謡のCDはなかったんです。日本でいう「さくらさくら」や「赤とんぼ」のような曲らしいのですが、ベトナムの人たちもお酒を飲みながら歌うような曲なので、それを録音するということ発想はないのでしょうか。

このように録音としても音源が世界に一つもないので、今回のCD

が「世界初録音」になりました。政府の方からも「ベトナムと日本を結ぶピアノリストであってほしい」と言われているので、ベトナムという国を多くの方にもっと知ってほしいという想いで録音に臨みました。素朴ながらもベトナムの風景が目に見え、ぶような仕上がりになったと思います。

ベトナムへの想い

——ベトナムへは年に何回程度行かれていますでしょうか。

大体年に2回行っています。いつも丸2週間ほど滞在して、その間に小学校・中学校・高校、施設や病院、孤児院等をまわって「ふれあいコンサート」をしています。クラシック曲がメインですが、民族楽器を演奏できる子とはベトナムの曲を共演したりもしますね。その合間に現地のホテルやホテルなどで有料のコンサートをして、そのチケット代を孤児院等に寄付しています。ベトナムへは日本で貯めた自分のお金を使って行っていて、現地でのコンサートもボランティアですが、今回の東日本大震災を受けて、ベトナムの方々もチケッ